

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-109537

(43)Date of publication of application : 28.04.1997

(51)Int.Cl.

B41K 1/58

B65D 85/20

(21)Application number : 07-266648

(71)Applicant : TANIKAWA SHOJI KK

(22)Date of filing : 16.10.1995

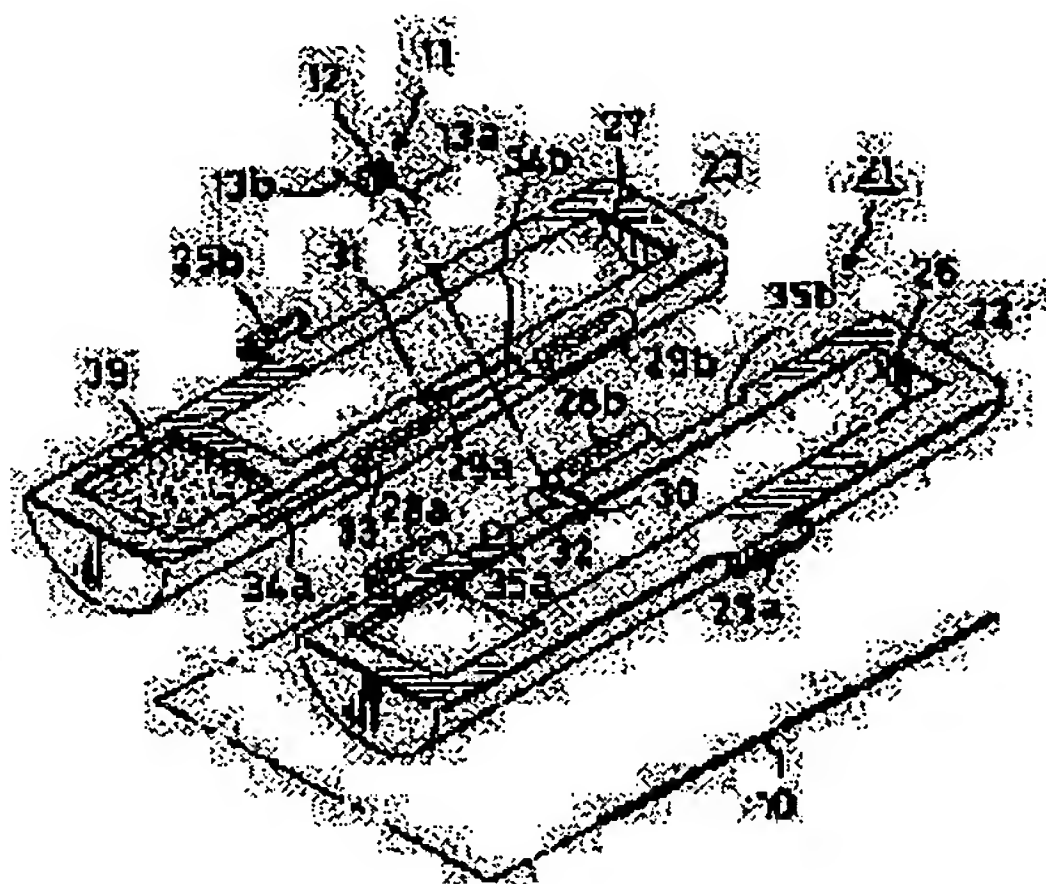
(72)Inventor : TANIGAWA MASAO

(54) SEAL CASE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent a seal from rolling down from a seal case and to prevent the hooking end part of a twisted spring from jumping out of a storing channel by restricting the angle of opening of a top lid when the seal case is opened.

SOLUTION: In a seal case 21 which is freely switchable by means of a movable connecting part 24 provided between the top lid 22 and the bottom lid 23, stopper walls 32 and 33 for restricting the angle of opening of the top lid are provided on the connecting part so as to make the stopper walls 32 and 33 work when the top lid 22 is opened at a specified angle.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 27.10.1997

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2842815

[Date of registration] 23.10.1998

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

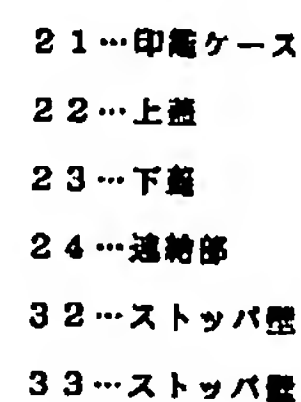
[Date of extinction of right]

(11)特許出願公開番号

(43)公開日 平成9年(1997)4月28日

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全 4 頁)

(74) 代理人 弁理士 浅川 哲



【特許請求の範囲】

【請求項1】 上蓋と下蓋との間に設けた可動性の連結部によって開閉自在となる印鑑ケースにおいて、前記連結部に上蓋の開き角度を規制するストッパ部を設け、上蓋を所定角度まで開いた時に前記ストッパ部が働くようにしたことを特徴とする印鑑ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は印鑑ケースに係り、特に上蓋と下蓋との間に設けた可動性の連結部によって開閉自在となる印鑑ケースに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来の印鑑ケース1として、例えば図4及び図5に示したように、上蓋2の一侧縁と下蓋3の一侧縁との間に可動性の連結部4を設ける一方、この連結部4とは反対側に設けた口金5a、5bによって上蓋2と下蓋3を自由に開閉できるようにしたものが知られている。上蓋2及び下蓋3はプラスチックによってかまぼこ形に成形され、内部には印鑑収納部6、7及び朱肉部19が形成されている。連結部4は、上蓋2及び下蓋3の各一侧縁にそれぞれ突出形成された円筒部8a、8b及び9a、9bと、これら円筒部8a、8b及び9a、9b内を貫通するピン10と、ピン10に巻装されたねじりばね11とで構成されている。ねじりばね11は、コイル部の両端から反対側にそれぞれ延びる係止端部13a、13bを備え、この係止端部13a、13bを上蓋2側および下蓋3側にそれぞれ係止させることで、上蓋2が開く方向に付勢力を働かせている。なお、上蓋2および下蓋3の一侧縁には上記円筒部8a、8b及び9a、9bに対応して凹溝部15a、15b及び16a、16bがそれぞれ形成されており、連結部4の回転可動を妨げないようにしている。また、特に円筒部9a、8bに対応する凹溝部16a、15bには、ねじりばね11の係止端部13a、13bを収納する一对の溝条17、18が設けられている。

【0003】上記構成からなる印鑑ケース1にあっては、口金5a、5bを外すとねじりばね11の付勢力により連結部4が可動し、上蓋2が弾性的に開いて中の印鑑20を容易に取り出すことができる一方、印鑑20を仕舞う場合にはねじりばね11の付勢力に抗して上蓋2と下蓋3とを閉じる方に押圧し、口金5a、5bを嵌め合わせることで簡単に閉じることができる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来における印鑑ケース1にあっては、上蓋2を開けたときの角度規制がないために、図4及び図5に示したように、口金5a、5bを外して印鑑ケース1を開けたときにねじりばね11の作用で上蓋2が180°以上に開いてしまい、印鑑収納部6、7から印鑑20が転げ落ち易くなり、またねじりばね11の係止端部13a、13b

が溝条17、18から印鑑ケース1内に飛び出してしまうといった問題があった。

【0005】そこで本発明は、印鑑ケースを開いた時に上蓋の開き角度を規制して、印鑑が転げ落ちてしまうのを防止すると共に、ねじりばねの係止端部が収納溝から飛び出さないようにしたことを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】即ち、本発明に係る印鑑ケースは、上蓋と下蓋との間に設けた可動性の連結部によって開閉自在となる印鑑ケースにおいて、前記連結部に上蓋の開き角度を規制するストッパ部を設け、上蓋を所定角度まで開いた時に前記ストッパ部が働くようにしたことを特徴とする。

【0007】

【発明の実施の形態】以下添付図面に基づいて本発明に係る印鑑ケースの実施例を詳細に説明する。図1乃至図3は本発明に係る印鑑ケース21の一実施例を示したものである。この実施例に係る印鑑ケース21は、先の従来例と同様、上蓋22の一侧縁と下蓋23の一侧縁との間に可動性の連結部24が設けられており、この連結部24とは反対側に設けられた口金25a、25bによって上蓋22と下蓋23とを自由に開閉できる構造となっている。また上蓋22及び下蓋23の内部には印鑑収納部26、27及び朱肉部39が形成されている。さらに連結部24の構造も従来例とほぼ同様であり、上蓋22及び下蓋23の各一侧縁にそれぞれ突出形成された円筒部28a、28b及び29a、29bと、これら円筒部28a、28b及び29a、29b内を貫通するピン10と、ピン10に巻装されたねじりばね11とで構成されている。ねじりばね11は、図1に示したようにコイル部12の両端から反対側にそれぞれ延びる係止端部13a、13bを備える。そして、上蓋22および下蓋23の一侧縁には上記円筒部28a、28b及び29a、29bに対応して凹溝部34a、34b及び35a、35bがそれぞれ形成され、特に円筒部29a、28bに対応する凹溝部35a、34bには、ねじりばね11の係止端部13a、13bを収納する一对の溝条30、31が設けられている。

【0008】この実施例に係る印鑑ケース21は、上述したように基本的構造が従来例と同じであるが、上記ねじりばね11に隣接する上蓋22および下蓋23の円筒部28b、29aに上蓋22の開き角度を規制するストッパ壁32、33が設けられている点で従来例とは異なる。このストッパ壁32、33は、図2及び図3に示したように、円筒部28b、29aの外側面を直線状に形成して下端に角部を設けたものであり、連結部24を可動した時に前記ストッパ壁32、33の直線部及び角部が上蓋22および下蓋23の外周面に当たることで開き角度が規制されることになる。従って、ストッパ壁32、33の形状や大きさ、又はストッパ壁32、33が

当たる上蓋22および下蓋23の外周面の形状などを選択することで、上蓋22の開き角度を適宜に設定することができる。因みに、この実施例では上蓋22が180°まで開いた時に前記ストッパ壁32、33が上蓋22および下蓋23の外周面に当たるようにしてあり、それ以上は上蓋22が開かないように調整してある。なお、この実施例では、ストッパ壁32、33が上蓋22および下蓋23の外周面に上記所定角度で当たるように、対応する凹溝部34b及び35aは他の凹溝部34a及び35b比べると溝深さが小さく形成してあり、この凹溝部34b及び35aに続く上蓋22および下蓋23の外周面にストッパ壁32、33が当たる。

【0009】したがって、上記構成からなる印鑑ケース21にあっては、口金25a、25bを外すとねじりばね11の付勢力により連結部24が可動して上蓋22が弾性的に開くが、180°まで開いた時に上記円筒部のストッパ壁32、33が上蓋22および下蓋23の外周面に当たってそれ以上は開かない。その結果、上蓋22及び下蓋23は水平状態に開いたままの姿勢が保持されることから、従来のように上蓋22を開けた途端に中に入っていた印鑑17が転げ落ちてしまうといったこともなく、またねじりばね11の係止端部13a、13bも溝条30、31に収納されたままで、印鑑ケース21内に飛び出すといったことがない。なお、印鑑20を仕舞う場合には、従来と同様にねじりばね11の付勢力に抗して上蓋22と下蓋23とを閉じる方に押圧し、口金25a、25bに係合することで簡単に閉じることができる。

【0010】なお、上記実施例では連結部24を構成する円筒部28a、28b及び29a、29bの内、内側の2つの円筒部28b、29aにストッパ壁32、33

を設けた場合について説明したが、本発明は全ての円筒部28a、28b及び29a、29bにストッパ壁が設けてあっても良い。またストッパ部の断面形状や設けられる場所も上記実施例のものに限定されないことは勿論である。更に印鑑ケース21も上記実施例のようにプラスチックの一体成形品のみならず、金枠を用いたタイプのものに適用できることは勿論である。

【0011】

【発明の効果】以上説明したように、本発明に係る印鑑ケースによれば、上蓋と下蓋とを開閉する連結部に上蓋の開き角度を規制するストッパ部を設けたから、従来のように上蓋が開き過ぎて中の印鑑が転げ落ちたり、ねじりばねの係止端部が収納溝から印鑑ケース内に飛び出してしまうなどの問題を解消することができた。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る印鑑ケースの分解斜視図である。

【図2】本発明に係る印鑑ケースの要部を示す一部断面斜視図である。

【図3】上記図2を矢印A方向から見た時の断面説明図である。

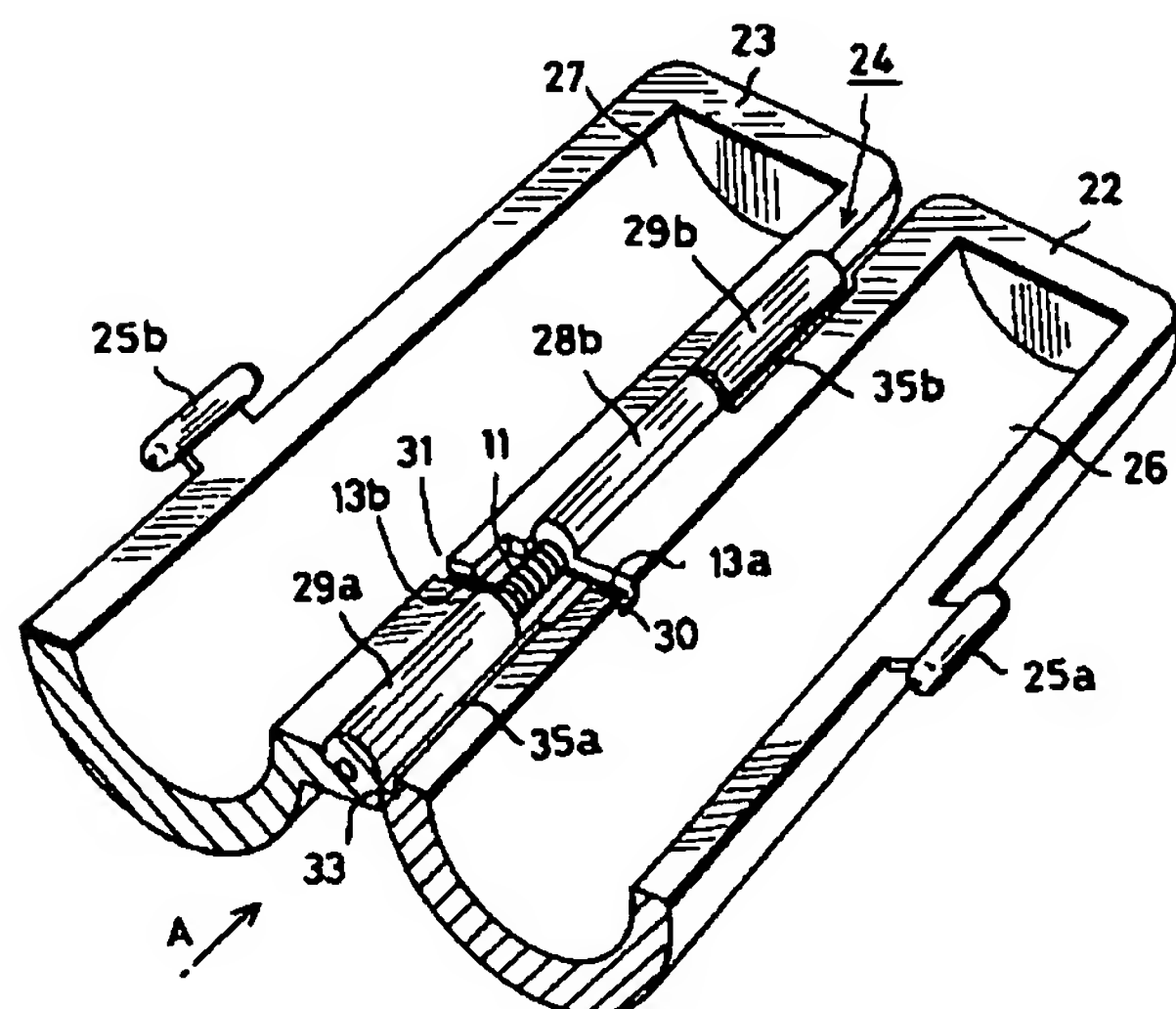
【図4】従来における印鑑ケースを示す全体の斜視図である。

【図5】上記図4のB-B線断面図である。

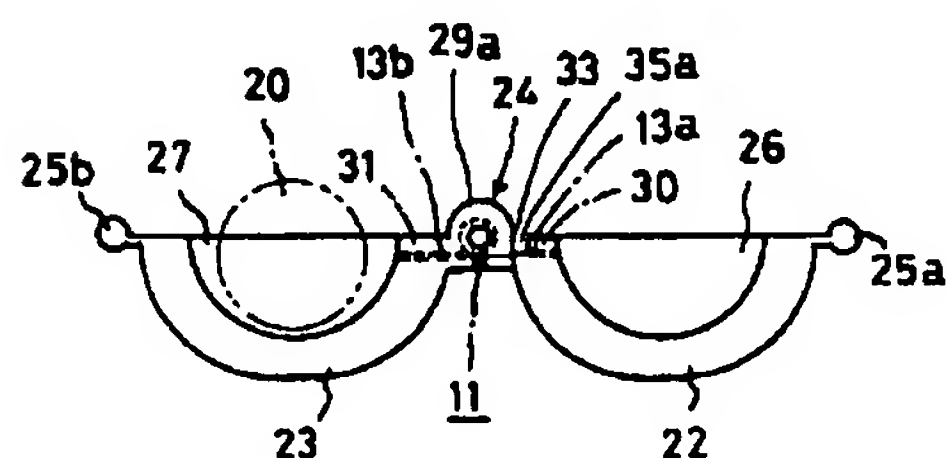
【符号の説明】

- 21 印鑑ケース
- 22 上蓋
- 23 下蓋
- 24 連結部
- 32 ストッパ壁（ストッパ部）
- 33 ストッパ壁（ストッパ部）

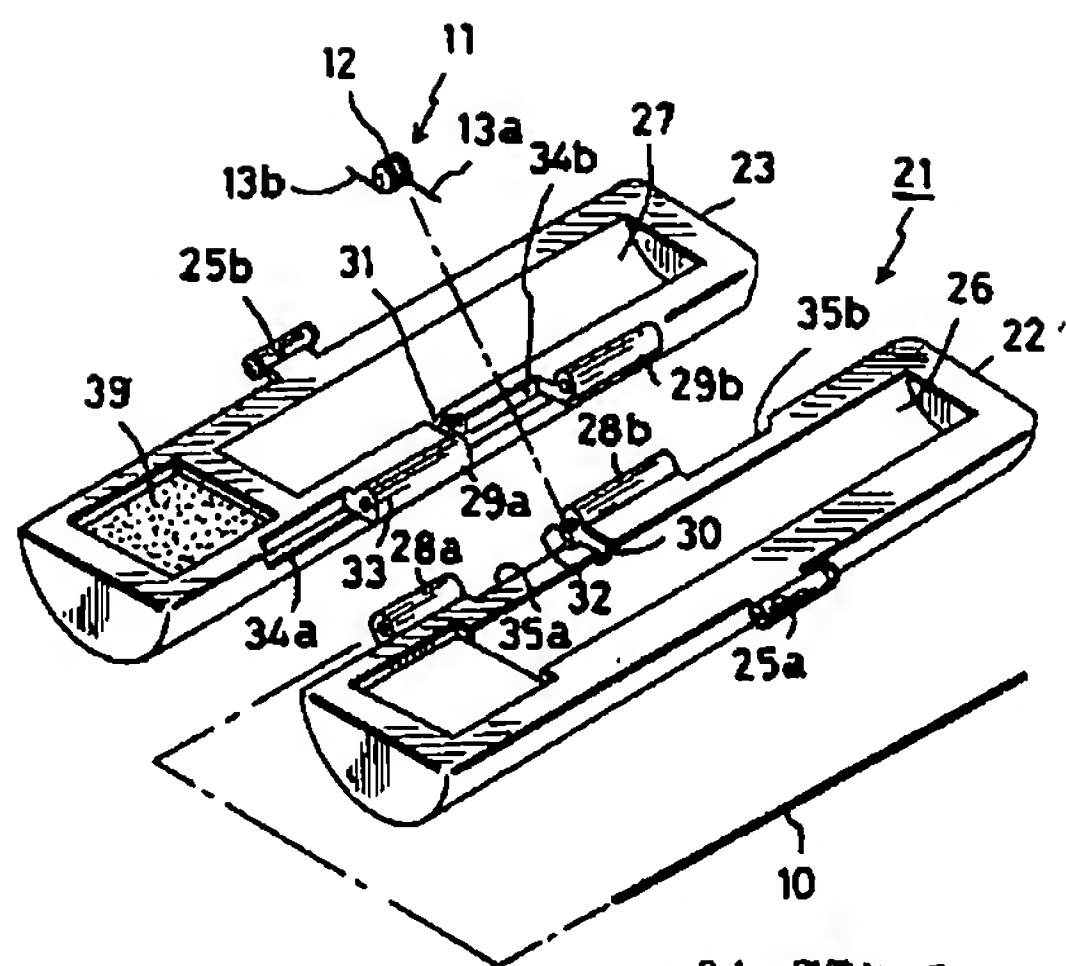
【図2】



【図3】

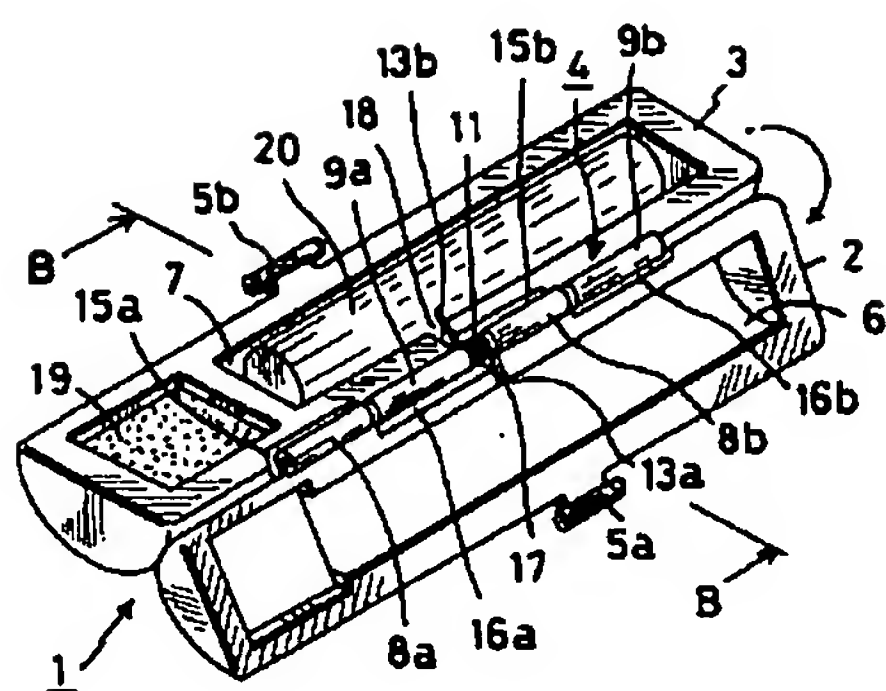


【図1】



- 21…印鑑ケース
22…上蓋
23…下蓋
24…連結部
32…ストッパ壁
38…ストッパ壁

【図4】



【図5】

